

●編集顧問／牧野永城，菅原克彦，阿部令彦，出月康夫，武藤輝一，田島知郎，萩原 優，北島政樹

●編集委員／跡見 裕，畠山勝義，炭山嘉伸，桑野博行，宮崎 勝

●編集同人／佐野圭司，近藤芳夫，阪口周吉，鈴木章夫，秋山 洋，塩谷信幸，諏訪邦夫，岡崎春雄，松元輝夫，折田薫三，細田泰之

2006 年 6 月に成立した「がん対策基本法」によって，がん対策においてはより一層の充実を図ることが示され，様々な事業が推進されているが，「腫瘍専門医」の養成も急ピッチで展開されている．この腫瘍専門医の数的，質的向上に対する関連学会および行政などの精力的貢献には目を見張るものがあるが，一方，現状に目を移すと腫瘍内科医が比較的広く確立している欧米と異なり，日本における固形癌に対する化学療法は，その善し悪しは別として，かなりの部分を外科医が担っていることもまた現実である．また，以前の気休め的な化学療法の時代を脱し，有効性の高い薬剤の開発が進むなか，多くの外科化学療法医はその膨大な情報量と急速な進歩にとまどいを隠せないことも多い．DPC の導入とともに急速に広がった外来における化学療法は，チーム医療という医療の形態を基盤に進化し続けている．

しかし考えてみると，手術室で仕事をするとき，決まった手順に沿った「手術の流れ」や，麻酔医，介助看護師，ME，事務などとの協力関係の善し悪しが成功の鍵を握っていることは多くの外科医の実感であろう．そして，そのようなチーム内において互いを尊重，理解し，またそれぞれの知識，技術，そして意欲を高める努力が多く現場で展開されている．つまり，チームで行う医療の重要性を一番理解しているのも外科医と言っても過言ではないのではないだろうか．言い換えれば，決まった手順に沿った医療やチーム医療の重要性，有効性を最も理解し応用できるのも麻酔医を含めた外科系医師なのかもしれない．「腫瘍内科医」に多くのご助力，ご教示をいただきながら，チーム内の密な連携のもと，がん化学療法における外科医の果たすべき役割はさらに大きくなっているものと思われる．外科医が主たる読者である「臨床外科」で「外来がん化学療法」を特集として取り上げる意味はまさにそこにあるのではないかと考えている．本特集が，化学療法を実践している多くの外科医に新たな展開をもたらすことを期待してやまない．

(桑野博行)

臨床外科 (第 62 巻 第 5 号)

発 行 株式会社 医学書院
代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
☎ 社内案内 (03) 3817-5600
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
振替口座 00170-9-96693 番

2007 年 5 月 20 日発行 (毎月 1 回 20 日発行)

定価 2,625 円 (本体 2,500 円 + 税 5%)
2007 年 年ぎめ予約購読料 38,960 円 (税込)
(送料弊社負担・増刊号を含む 13 冊)

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5708
ファクシミリ (03) 3815-7802
E-mail: ringe@igaku-shoin.co.jp
担 当 田村・鶴淵・中田
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

- ・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan
- ・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- ・ JICLS < (株) 日本著作出版権管理システム委託出版物 >
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き，禁じられています．本誌を複写される場合は，そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム (03-3817-5670) の許諾を得てください．
- ・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です．
- ・ 「臨床外科」ホームページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringe/> です．